

第7期 pES club EBM 実践大会

平成20年12月21日

東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

平和歯科医院

阿部 修

<http://spell.umin.jp>

目標：チーム医療を学ぶ

課題：以下のシナリオについて、次頁の進め方に従い治療プランを作成せよ。

あなたは Sackett 総合病院, Guyatt 市民病院, Straus 中央病院, Greenhalgh 記念病院の内科病棟に勤務しています。

円下平太さん（82歳男性）は右下葉の嚥下性肺炎で1週間前に入院しました。入院時の喀痰検査ではグラム染色でグラム陽性球菌が検出されたため、ペニシリンGカリウム 200万単位 6時間毎の点滴静注を開始し、翌日には解熱、その後、咳や痰などの症状も改善しました。後に判明した喀痰培養検査では肺炎球菌（PSSP）が検出されたため、第5病日より抗生剤をサワシリン 1500mg 分3に変更して、合計14日間投与予定です。状態が安定していることから、5日後には退院予定です。

円下さんは3年前に左内包後脚の脳梗塞を発症し、その時に右片麻痺と構音障害が起りましたが、3ヶ月のリハビリの結果、T字杖を使用しての歩行ができるまでに回復しました。構音障害もほぼ残っていませんが、直近のリハビリの評価では、嚥下障害が軽度残存するので飲み込みは意識してゆっくり行うようにと、言語療法士より指導されました。食事は一時普通食でしたが、数年前から使用している下顎義歯の圧迫で顎堤粘膜に痛みが生じており、本人の希望で現在はきざみ食に変更しています。

歯科口腔外科による検診によれば、義歯は下顎臼歯部の両側遊離端欠損部のみで、下顎前歯及び上顎（智歯を除く）はすべての歯が残存しています。口腔内の衛生状態は悪く、随所にプラーク残存による歯肉炎がみられ、上顎臼歯部には中等度の歯周炎が認められます。ただし、歯周炎は自発痛がない状態で、急な治療を要する齶蝕などありません。義歯による痛みは時折生じるようで、そうした時だけ歯科医院を受診して、痛みを取る治療を受けているそうです。定期検診は受けていないものの、円下さんの口腔衛生への意識は低くはなく、「1日2回は硬い歯ブラシでしっかり磨いている」とのことです。

円下さんは20年来の高血圧はありますが、糖尿病、高脂血症はありません。狭心症や末梢血管疾患などといった、脳梗塞以外の心血管疾患の既往

第7期 pES club EBM 実践大会

もありません。喫煙は1日20本を20歳から現在まで続けています。現在、ノルバスク5mg分1朝食後、バイアスピリン100mg分1朝食後、オメプラール10mg分1朝食後を内服しています。

円下さんは妻との2人暮らしです。隣町に娘が住んでおり、週1回様子を見に円下さんの家を訪れています。自宅は木造2階建ての一戸建てですが、円下さんの居室は1階の居間で、介護用ベッドで寝起きしています。トイレへの歩行はつたい歩きでできており介助不要です。食事も、妻が準備をすれば、介助なく自分で食べることができます。週に2,3回妻と一緒に近所を散歩しますが、交通機関に乗って遠出することはありません。趣味は読書で、自宅にいるときには、椅子に座って本や新聞を読むことが多いそうです。円下さんは要介護1の認定を受けていますが、現在のところ介護サービスは特に利用していません。

進め方：

- ①家のメンバーで相談し、円下さんが今後嚥下性肺炎を再発しないための治療プランを決める。
- ②その際にシナリオに対して追加で知りたい情報があれば、メインメンバーリスト上で聞くこと。
- ③治療プランには必ず、全メンバーそれぞれの視点を盛り込むこと。
- ④プラン作成にあたっては、EBMの4要素を十分に考慮し、エビデンスに基づいて作成すること。
- ⑤12月14日（日）までに、治療プランの内容について家で1つにまとめて南郷に提出する。
- ⑥EBM実践大会当日は、出席者全員が、各家の治療プランに従って、円下さんとその家族に必要な情報提供とアドバイスをそれぞれ5分間で行う。

EBM実践大会はpES clubで1年間EBMを学んだ集大成となるものである。これまでに学んだこと全てを活用して取り組むこと。

課題を進める上で不明な点、困ったことなどが生じた場合には、早めにML上で質問すること。